

# 視察報告

自由民主党周南 青木義雄

視察場所 西条のん太の酒蔵（東広島市）

日時 令和7年8月5日

## 概要

令和4年7月15日に東広島市「道の駅湖畔の里福富」に次ぐ2つ目の道の駅として、国道2号線沿いにオープン。「のん太の酒蔵」の名称は①全国公募（541件）②市内大学生、小学生へのアンケート③観光協会、地元代表、出荷団体等により①と②をふまえて決定。

DB方式、公募型プロポーザルにより施設整備事業者を選定。全体面積34900㎡、駐車場219台（大型81台・小型133台・身障者妊婦用5台）トイレ43基、直売所、フードコート、レストラン、子供向け屋内遊技場、多目的展示室、シャワー施設、ベビーコーナーなど。整備費は52000千円。防害道の駅に選定。売り上げは令和4年5.39億円（7月15日～）令和5年7.24億円、令和6年7.12億円

## 所感

面積、売り上げ、さらには防災道の駅に選定、国道2号線沿いにある等周南市道の駅「ソレーネ周南」と共通点が多く、現在周南市が本年3月に公表された「周南市道の駅ソレーネ周南リニューアル基本計画」に対しての疑問や課題が確認できた有意義な視察であった。

（9月定例会での一般質問で正す）主な参考項目としては指定管理料が0円である。また

利益の20パーセントが市に繰り入れられるとのこと。指定管理者としては厳しいと思うが、その点についてはまだまだ売り上げが見込めるという回答があり、イベント会場に活用や好調なお酒の売り上げなど、ポテンシャルが高い道の駅であると感じた。名称の通り東広島市の有名や酒蔵を前面に打ち出している効果は表れており、ブランド戦略の拠点機能として明確に進めていることが、他の道の駅との差別化が図られており、人気の高い道の駅として近隣に評価されている。新しい時代の道の駅の最新版であり、リニューアルするソレーネ周南にとっては参考して、更なるすばらしい道の駅を構築していただきたい

自由民主党周南 会派視察報告書 令和7年8月5日～6日 報告者 友田 秀明

参加者 青木義雄・有田 力・小林正樹・友田秀明・古谷幸男 5名

視察先 岡山県真庭市

視察項目 JR西日本株式の購入について

### 真庭市概要

真庭市は平成17年3月31日に真庭郡勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村及び上房郡上房町の5町4村が合併して誕生した。岡山県北部で中国山地のほぼ中央の位置し、北は鳥取県に接し、東西30km、南北50kmで総面積828km<sup>2</sup>もあり岡山県の約11.6%を占める岡山県で最も広い自治体である。合併時の人口は51,782人いたが2025年7月1日の推計では38,633人と人口減少が進んでいる。

視察項目のJR西日本株式購入について、先ず真庭市を通るJR姫新線は、兵庫県品姫路市・姫路駅から津山駅を経て、岡山県新見市・新見駅に至る全長158.1kmのJR西日本の鉄道路線。駅数36駅、全線非電化。(ICOCAエリア；姫路駅～播磨新宮駅) JR西日本令和4年4月11日に「ローカル線に関する課題認識と情報開示として、【JR西日本発足から35年間、地域の皆様にご協力いただきながら、輸送改善や観光誘致といった利用促進策を進めてまいりました。一方、この間に沿線人口の減少、少子高齢化、道路整備や、道路を中心としたまちづくりの進展など、ローカル線を取り巻く環境は大きく変化しています・・・持続可能な地域社会の実現に向け、線区の特性の違いや移動ニーズをふまえ、今よりも利用しやすい最適な地域交通体系を地域の皆様と共に創りあげていく必要があると考えている。との発表を受け、真庭市として姫新線利用促進の取り組みを色々と実行していく中で、令和6年7月に地方鉄道をネットワークとして守るために株主として資本参加・株主として責任のある立場で経営に関与し、公共交通を守る本気度を示す・JR西日本との関係性を深め、姫新線の存続や利便性向上の取り組みを強く推進することをもくてきにJR西日本の株式取得に踏み切った。以上説明を聞き質疑応答にはいる。

質疑 1 株式取得の経緯いと考え方について（市長主導なのか）

回答 質問の通り、株式の取得は、市長主導による。市長の考えは、①自治体による株式取得の先行事例と適法性の確認として、JR九州・日南線沿線の宮崎県日南市、串間市で約1,000万円分の株式を取得している事例や、大阪市、京都市が関西電力の有力株主である実績を背景に、自治体が企業の株式を取得することに問題がないことを事前に確認。②株式保有の割合は低いものの、

株主という立場から JR 西日本の経営に参加し、より本気で意見を述べることができると考えている。これにより、姫新線の存続問題においては、単に第三者として要望するだけでなく、真庭市として利用促進に取り組むことで、JR 側にも誠実な対応を求められることができると判断。

③JR 西日本の株式の保有は、真庭市の資産運用の点からも有利であると評価。④公金で株式を取得することを通じて、市民の皆様には姫新線に対する興味や関心、利用意識の醸成に繋がりたいと思う。

⑤鉄道は広域公共交通としてネットワークとして繋がることでインフラとしての価値があると考えている。ローカル線の廃線は、人々が住めない地域であるというイメージ悪化につながり負のスパイラルになることを危惧している。株式取得の動きが、同様の状況を抱える地方都市に波及し、大きなうねりになることを期待している。

質疑 2 取得までの庁内や議会の反応と対応（議会の動き）

回答 R5 年 11 月 24 日 議会全員協議会を開催して説明。真庭市議会は沿線市町の議員でつくる『JR 芸備線・姫新線・因美線の利用促進と存続をめざす議会議員連盟』の構成員となっており、全体としては取り組みに賛同されている。これは、地方路線の存続が地域にとって重要な課題であるという共通認識があるためだと考えます。議員からの質問を要約すると、公金で株式取得という異例の取り組みに対する、議員からの慎重な意見・疑問を反映したもので、特に投資額と株主としての影響力のバランス、そして公金運用におけるリスクに対する懸念が示された。最終的には予算は原案通り可決された。

質疑 3 取得財源は 回答 前年度の決算余剰金で対応。

質疑 4 取得後の JR の変化は 回答 株主だからという理由での大きな変化はない。

株式取得の概要 取得決定 R5 年 10 月頃・受渡日 R6 年 7 月 14 日 取得額 99,907,777 円  
取得株数 34,000 株/471,009,800 保有率 0.0072% 年間配当金（参考）2,873,000 円  
株式含み損益 1 株 2,935.2 円で取得 7/6 現在 +7,148,160.000 円

その他 株主優待鉄道割引券が 78 枚あり JR 西日本管内の片道 1 人の運賃（特急券含む）料金が 50%割引・京都鉄道博物館入館割引券 2 人利用入館料 50%割引・その他有り